

## 令和5年3月期 通期見込及び中間決算概要（連結）

### 1. 通期見込及び中間決算実績

（単位：億円（単位未満切捨て））

区分		R4年度 通期見込 ※1	R3年度 通期実績	増減	R4年度 上期実績	R3年度 上期実績	増減
営業収益	高速道路事業	10,480	12,952	▲2,471	4,273	4,265	8
	料金収入	7,036	6,772	263	3,640	3,281	358
	道路資産完成高	3,418	6,145	▲2,726	620	969	▲349
	その他	25	34	▲8	13	14	▲0
	関連事業	393	344	49	178	134	43
	S A・P A 事業	263	212	51	129	94	35
	その他の事業	130	131	▲1	48	39	8
計	10,874	13,296	▲2,422	4,451	4,399	52	
営業費用	高速道路事業	10,476	12,872	▲2,395	4,121	4,135	▲13
	道路資産賃借料	4,897	4,715	181	2,523	2,242	281
	道路資産完成原価	3,418	6,145	▲2,726	620	969	▲349
	管理費用	2,161	2,011	149	977	923	54
	関連事業	380	372	8	172	158	13
	S A・P A 事業	256	244	12	123	118	5
	その他の事業	123	127	▲3	48	40	8
計	10,857	13,244	▲2,386	4,293	4,294	▲0	
営業利益 (損失▲)	高速道路事業	4	80	▲76	152	130	22
	関連事業	12	▲27	40	5	▲24	30
	(うちS A・P A 事業)	6	▲32	38	6	▲23	30
計	16	52	▲35	158	105	53	
経常利益 (損失▲)		36	79	▲43	168	118	49
当期 (中間) 純利益 (損失▲) ※2		25	66	▲41	120	92	27

表の右側の丸囲み番号については、2ページ以降に解説を記載しています。

※1 「通期見込」は、将来見通し及び計画の基となる前提・予測を含んでおり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

※2 「当期 (中間) 純利益 (損失▲)」には、「親会社株主に帰属する当期 (中間) 純利益 (損失▲)」を記載しています。

(注) 当社グループの事業区分及びその主要内容は、以下のとおりです。

事業区分	主要内容	
高速道路事業	高速道路の新設、改築、維持、修繕、災害復旧その他の管理等	
関連事業	S A・P A 事業	高速道路の休憩所、給油所等の建設、管理
	その他の事業	受託事業、駐車場事業、トラックターミナル事業、コンサルティング事業等

※文中の丸囲み番号は、1 ページの表の右側に記載の番号と対応しています。

## 2. 通期見込の解説

### (1) 高速道路事業

- ① 料金収入は、前期に比べて交通量の増加が見込まれ、対前期 263 億円 (3.9%) 増の 7,036 億円となる見込みです。
- ②③ 道路資産完成高は、E54 中国横断自動車道尾道松江線雲南加茂<sup>うんなんかも</sup>スマートインターチェンジの開通などがあるものの、前期からは 2,726 億円減の 3,418 億円となる見込みです。  
なお、道路資産完成高は、道路建設にかかった経費と同額の債務を独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構（以下「高速道路機構」といいます。）に引き渡すため、道路資産完成原価と同額となり、営業利益に影響しません。
- ④ 高速道路機構に対する道路資産賃借料は、対前期 181 億円増の 4,897 億円となる見込みです。
- ⑤ 管理費用は、前期に比べて安全・安心のための構造物補修費用等の増加を見込んでおり、対前期 149 億円増の 2,161 億円となる見込みです。
- ⑥ 高速道路事業の営業利益は、対前期 76 億円減の 4 億円を見込んでいます。

### (2) 関連事業

- ⑦ S A・P Aの飲食物販店舗売上高は、新型コロナウイルス感染症の影響緩和に伴い、対前期 177 億円 (27.8%) 増の 819 億円を見込んでおり、S A・P A事業の営業収益は、対前期 51 億円増の 263 億円となる見込みです。
- ⑧⑨ S A・P A事業の営業利益は、対前期 38 億円増の 6 億円、関連事業全体では対前期 40 億円増の 12 億円となる見込みです。

### (3) 全事業

- ⑩ 最終損益は、対前期 41 億円減の 25 億円となる見込みです。

※文中の丸囲み番号は、1ページの表の右側に記載の番号と対応しています。

### 3. 中間決算実績の解説

#### (1) 高速道路事業

- ⑪ 管内の高速道路の通行台数は、対前年同期 10.6%増の 291 万台/日となり、料金収入は、対前年同期 358 億円 (10.9%) 増の 3,640 億円となりました。
- ⑫ 高速道路事業の営業利益は、対前年同期 22 億円増の 152 億円となりました。【注】

#### (2) 関連事業

- ⑬ S A・P Aの飲食物販店舗売上高は、対前年同期 125 億円 (44.1%) 増の 408 億円となり、S A・P A事業の営業収益は、対前年同期 35 億円増の 129 億円となりました。
- ⑭⑮ S A・P A事業の営業利益は対前年同期 30 億円増の 6 億円、関連事業全体では対前年同期 30 億円増の 5 億円となりました。

#### (3) 全事業

- ⑯ 当期純利益は、対前年同期 27 億円増の 120 億円となりました。

【注】 冬季における交通を確保するための雪氷対策や維持修繕関係工事の完成が下期に多いことから、高速道路事業の営業利益は下期と比較して上期が大きくなります。

## 【参考】 個別通期見込及び中間決算実績

(単位：億円 (単位未満切捨て))

区分		R4年度 通期見込 ※	R3年度 通期実績	R4年度 上期実績	R3年度 上期実績
営業収益	高速道路事業	10,465	12,933	4,267	4,258
	料金収入	7,037	6,774	3,641	3,282
	道路資産完成高	3,418	6,145	620	969
	その他	8	13	6	5
	関連事業	172	154	80	53
	S A・P A事業	96	79	48	37
	その他の事業	76	75	31	16
	計	10,637	13,087	4,347	4,311
営業費用	高速道路事業	10,465	12,869	4,090	4,112
	道路資産賃借料	4,897	4,715	2,523	2,242
	道路資産完成原価	3,418	6,145	620	969
	管理費用	2,149	2,009	946	900
	関連事業	167	166	76	61
	S A・P A事業	93	91	44	44
	その他の事業	74	75	31	16
	計	10,633	13,036	4,166	4,174
営業利益 (損失▲)	高速道路事業	▲0	63	177	145
	関連事業	4	▲12	3	▲8
	計	4	50	180	137
経常利益 (損失▲)		24	83	196	163
当期 (中間) 純利益 (損失▲)		19	79	144	136

※ 「通期見込」は、将来見通し及び計画の基となる前提・予測を含んでおり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。